

どんぐり

No.62



大屋根広場での隠れ家づくり（姫路市立大津茂小学校）

兵庫県立
南但馬自然学校

HYOGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

(Nature Education Center)

自然にふれ

自然に学ぶ



兵庫県立南但馬自然学校

校長 山田卓三

「春は花 夏ほどとぎす 秋は
月 冬雪沢(さ)えて 涼しかりけ
り」という道元禅師の歌のように
南但馬の四季の自然は変化に富んでいます。初夏には卯の花が山の斜面を白く彩つて、ホトトギスの鳴き声が聞こえて来ます。佐々木信綱の「夏は来ぬ」の「卯の花の匂う垣根に 時鳥(ホトトギス)早も來鳴きて 忍音(しのびね)もらず夏は来ぬ」の歌を連想させる情景です。この卯の花(ウツギ)の枝を何校かの子どもたちに見せ、「この花の名前知っていますか?」と数校の子どもたちに尋ねてみたところ、名前と实物と共に知っている子どもは皆無でした。

樹上で産卵するモリアオガエル

カエルと言えば池や水田などで姿を思い浮かべると思いますが、南但馬自然学校では5月から6月の始めにかけて、樹上に産卵する珍しいモリアオガエルの卵塊がみられます。毎年、雨乞いの池の上に伸び広がった樹上でみられます。池の面の近くから10メートルも離れた高所まで卵塊がみられるよう



自然に学ぶ

自然学校で人ととの触れ合い、そして共に四季折々の自然に触れ、自然を学びさらにつれていく過程を学んでほしいと思っていました。自然是多様ですので自然を科学生的に学ぶことは容易ではありません。まずは、自然と五感(触覚・嗅覚・味覚および視覚・聴覚)で直接触ることです。特に触・嗅・味の基本感覚を意識した原体験が必要です。これら触・嗅・味の基本感覚を伴った体験は、長期記憶になり生涯忘れません。次に素材を自

になり、その総数が30個以上になっている様子は壮観です。今年は道端の水路の樹上にもみられたので、子どもたちはこの卵塊に一人一人直接手で触れることができ只得難い体験ができました。卵が樹上の泡状の卵塊の中で孵化(ふか)すると、このオタマジャクシは池の中に落としてきます。これを食べようトイモリが口を開けて待機している姿もみることができます。

このオタマジャクシがイモリに捕食されたり、トンボや蝶が小鳥に食べられたりする姿を見る子どもたちの気持ちは複雑だと思いません。モンシロチョウの羽化を見ようとキヤベツ畑から幼虫を採取しようとアオムシコマユバチが沢山出でています。自然界ではこのような寄生や捕食や共食いなど、一見残ってきます。野外から採取してくれて飼育しているとふ化寸前の幼虫からアオムシコマユバチが沢山出で、子どもたちはこの卵塊に一人一人直接手で触れることができ只得難い体験ができました。卵が樹上の泡状の卵塊の中で孵化(ふか)する、マチグモのようにススキの葉を2回折り曲げて巣をつくり、この中で産卵し孵(かえ)つた幼虫にマチグモのようになります。カバキコマチグモの3回折り曲げて巣をつくり、この中で産卵し孵(かえ)つた幼虫に自らの母体を食べさせるものも見られます。こうした行為も子孫を残し、共に生きて行くための自然の姿であるという学びも大切だと思います。

このオタマジャクシがイモリに捕食されたり、トンボや蝶が小鳥に食べられたりする姿を見る子どもたちの気持ちは複雑だと思いません。

このオタマジャクシがイモリに捕食されたり、トンボや蝶が小鳥に食べられたりする姿を見る子どもたちの気持ちは複雑だと思いません。このオタマジャクシがイモリに捕食されたり、トンボや蝶が小鳥に食べられたりする姿を見る子どもたちの気持ちは複雑だと思いません。

寄生蜂のアオムシコマユバチの寄生や自分の体を子に食べさせる力バキコマチグモの共食いなど特殊な体験でなくても普通に見られる捕食関係など自然のありのままの姿を見て、自然の見方と感じ方、自然のしくみを学ぶ場としての自然学校に期待しています。

おわりに



(3)どんぐり

兵庫型「体験教育」の評価・
検証委員会を受けて、平成24
年度の自然学校の活動を振り
返る

兵庫県教育委員会事務局 義務教育課

【はじめに】

「自然学校」は、昭和63年度から小学校5年生を対象に実施され、平成3年には全県実施となつた。平成24年度末時点でのべ約132万人の児童が参加しており、これは、県民の約4分の1にあたる人々が、体验したことになる。

【兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会】

兵庫県が進めてきた「自然学校」「トライやる・ウイーク」をはじめとする多様な体验活動が、平成21年度の「環境体验事業」の全校実施により、兵庫型「体験教育」と言える体系的な体验活動として整備された。また、高等学校の事業が5年を経過したことを契機として、平成22年度に、兵庫型「体验教育」の評価・検証委員会を設置し、更なる充実を図るために、評価・検証が行われた。

小学校での環境体验、自然体验、中学校での芸術文化体验、社会体验、高等学校での奉仕体验、就業体验と、小学校から高等学校における各体验活動が、それぞれの発達の段階を踏まえた目的・ねらいをもつて体系的に進められているとの評価を受けている。

「自然学校」では、子どもたちが協力して一つのことをやりとげる活動が重視されており、集団活動の中で友だちとのつながりを感じ、協力することの大切さを学ぶ場となる。これらの評価・検証を受け、「自然学校」の充実を図るために、「6つの方策」を観点とした推進状況について、平成24年度の特色ある活動をまとめた。

○方策1 自然学校と他の教育活動との関係を図る取組の充実

海辺の活動で、漂着物を拾った後、漂着物に関する説明を聞き、種類毎に分類した。どのような種類の漂着物が多いのかが分かった。さらに、その結果をもとに、総合的な学習の時間に日常生活で気付くことについて考へた。

【平成24年度の活動を振り返る】

「自然学校」では、子どもたちが協力して一つのことをやりとげる活動が重視されており、集団活動の中で友だちとのつながりを感じ、協力することの大切さを学ぶ場となる。

○紳に気付き、感謝する体験

「自然学校」では、子どもたちが協力して一つのことをやりとげる活動が重視されており、集団活動の中で友だちとのつながりを感じ、協力することの大切さを学ぶ場となる。

○方策2 事前・事後の学習活動の一層の充実

実施場所の特性を生かし、地域のくらしや自然を体験できるよう

事前活動では、田植えや実施地の学習を行い、自然学校の中で、地域の伝統工芸の制作、稻刈り、川遊びなどの体験をした。事後活動で、収穫したもち米で、餅つきなどの活動を実施した。

○方策3 学校では得難い体験活動プログラムの一層の充実

地曳網体験では、海から引き上げる網の重さを実感することがで

○方策4 社会性や自立性を育むための集団活動の充実

連合での自然学校は、他校との交流が大きなねらいの一つであり、活動班は混合班とした。最初は、同じ学校の児童でかたまりがちであつたが、飯ごう炊さんや隠れ家づくりなど協力して活動する場を重ねることで、交流が深まつた。さらに、コース選択活動では、班活動とは別に、児童の希望で集まつたので、ここでも新しいメンバとの交流ができた。

○方策5 子どもの成長過程を踏まえた体验活動の充実

3年生での田植えや稻刈りなどの環境体验の延長で、自然のあり

○方策6 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策7 事前・事後の学習活動の一層の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策8 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策9 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策10 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策11 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策12 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策13 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策14 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策15 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策16 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策17 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策18 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策19 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策20 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策21 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策22 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策23 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策24 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策25 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策26 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策27 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策28 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策29 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策30 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策31 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策32 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策33 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策34 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策35 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策36 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策37 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策38 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策39 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策40 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策41 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策42 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策43 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策44 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策45 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策46 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策47 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策48 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策49 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策50 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策51 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策52 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策53 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策54 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策55 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策56 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策57 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策58 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策59 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策60 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策61 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策62 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策63 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策64 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策65 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策66 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策67 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策68 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策69 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策70 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策71 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策72 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策73 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策74 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策75 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策76 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策77 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策78 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策79 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策80 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策81 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策82 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策83 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策84 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策85 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策86 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策87 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策88 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策89 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策90 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策91 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策92 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策93 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

○方策94 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実

自然学校で学んだことを総合的

</

立木を切る体験

アクティビティ紹介

2 アクティビティとして取り入れた背景

今年度、本校における自然学校で、新しく「木や竹などの立木を切る」アクティビティを開発しました。

4月、本校で開催した事前説明会において、午前中の選択活動の一つとして、出席した利用校63校69名の先生方のうち31名が「松の立木を切る」体験をしました。

そして、1学期の利用校の中で、

新規アクティビティとして、各校が取り入れやすいように、事前に伐採に適したフィールド、立木探しから、のこぎり等の用具の安価な点検、学習活動案の作成、利用校のねらいに応じた学習活動案の改良等に努めてきました。しかし、実際、利用校が取り組む中で、成果と同時に課題や修正点も見えてきました。

今回は、このアクティビティを取り入れた背景、また利用校の取組の様子を紹介する中で、このアクティビティの魅力を伝えていきます。

そこで、子どもが日常生活ではできない「立木を切る」という体験が、本校における自然学校で可能になりました。



3 活動の様子 (利用校の取組から)

以上のことをふまえ、「立木を切る」という新しい試みが始まりました。

1学期の利用校の中で、原体験の意義を理解し、学校のねらいに合わせた「立木を切る体験」の取組について紹介します。

木を絵で表現した。
子どもたちで力を合わせて、枝の部分と幹の部分に切り分け、運搬した。

(1) たつの市立河内小学校

①児童数	12人
②班編成	3班編成

- ① 活動内容
(1日目)
 - 伐採する「ひのき」という木についてどんな木か、当初のイメージ（幹、葉のつき方、枝の分かれ方等）を絵で表した。
 - 木を観察し、触ったりした後、全員が少しずつ切り口を入れ、ロープを使つてたおした。
 - 活動のふり返りの中で、改めて

- ③ 成果と課題 (○成果 ●課題)
 - ひのきの幹の部分を使つたクラフトを行つた。表皮をすぐきれいに剥がすことができるなど、クラフトに適しているという利点があつた。
 - 切りたおす前後の木のイメージを絵で表したり、ひのきの葉や幹を触つたり独立のにおいて嗅いだりする中で、木に対する認識が深まつた。

そこで、時間が十分確保できなかつたため、学校のねらいであつた「1木の木をみんなで運ばせることで、生木の重さ、肌触り等を体感させる」ことができなかつた。

(5) どんぐり

立った。そして各班から「17歳」という予想が出てきた。実際に切り、年輪を数えて確かめた。また、いろいろな箇所を順番に切らせることによつて、年輪の数が変わっていくことも確かめることができた。

子どもの感想から

その後 本校の山田卓三校長から「木の年齢は、枝と枝の間の幹の数で確かめられる」という方法を教わり、実際にその数を班員で何度も確かめながら予想を立てた。そして各班から「17歳」という予想が出てきた。
実際に切り、年輪を数えて確かめた。また、いろいろな箇所を順番に切らせることによつて年輪の数が変わっていくことも確かめることができた。

松の木の年輪を調べる活動を行つた。

「木を切らず(年輪を見ないで)、木の年齢を確かめるにはどんな方法があるか」という発問に対し、子どもたちは、具体的な方法は見つからないまでも、木の年齢が「幹の表面の肌触り」「松かさの数」「葉の本数」から確かめられないかなど多様な予想が出てきた。

(2) 活動內容 兒童數 67名
10班編成

(2) 加西市立北条東・富田小学校連合

ねちやねちやしていた。
松の年輪を数える時、まつやに
がにじんでいて数えにくかつた。
松の切つたところをにおつて
みると、ミントのようなにおい
がした。



切る体験の時間
を十分確保しようと
とするあまり、グ
ループワークの時
間（まず一人一人
がしつかり自分の
考えを持ち、それ
を班で十分話し合
つて予想する時間）
が十分ではなかっ
た。

○ 成果と課題 ○ 成果 ● 課題

A group of students are gathered around a table in a classroom, working on projects. One student in the foreground is holding a large white cylindrical object, while others are looking at papers or equipment. The room has wooden walls and fluorescent lighting.

A group of approximately 15-20 young children, likely preschool or elementary school age, are walking in a line through a lush green forest. They are all wearing matching yellow waterproof raincoats over their regular clothing and yellow rain hats. Many of the children have backpacks on their backs. The path they are on appears to be a dirt or paved trail with some fallen leaves and branches. The background is filled with dense green trees and foliage, creating a natural, outdoor setting.

(3) 小野市立来住小学校

② ① 兒童數
活動內容 32人
5班編成

(一三三)

当初、切り込みを入れたひのきの立木を子どもたちがロープで引いて倒す予定であった。しかし、当日大雨のため、学校と進行役のファシリテーターと相談の上、子どもには、主に「立木の倒れる音を聴くこと」に集中させながら、立木を本校職員、指導補助員らが切り倒した。その後、倒したひのきに触れたり、におい

子どものふり返りより

工作室に移動後、このひのきからどんなものを作るか、「設計図づくり」について、班ごとに2回のグループワーク、全体発表を行い、ベンチ等製作するものを決めた。そのベンチは地域で交流のある老人へ座つていたぐためのもので、事後の学校教育活動に生かされたクラフトになつた。

- ・
「1本の木から何できる?」と
いう活動を行つた。まず、伐採
した約12mのひのきを切断する
ことなく、32人の子どもの力で
まるまる1本を伐採フイールド
から約500m離れた工作室ま
で運搬した。

九原志

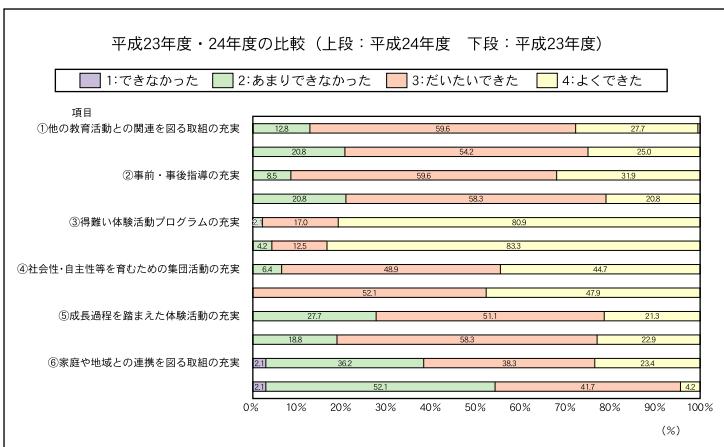
4

このアクティビティは、日常生活では難しい「立木を切る体験」を、ぜひ触覚、嗅覚などを通して体験させたいという思いからスタートしましたが、成果とともに課題も見つかりました。

子どもたちは一本一本の木をどのように使うか
グループワークでしつかり考え
を出し合い、全体での分かち合い
の時間で仲間に表現できていた。
打合せの段階で時間を十分確
保していれば、今回のような悪
天候の中でも、子どもたちに伐
採体験を味わわせることができ
たと感じた。

現在、本校ではこの課題をふまえ、指導法についての改善を図るとともに、技術指導員の確保、安全面をふまえた活動備品や施設の整備、本校の利用校への安全指導資料の作成等を行っているところであります。「立木を切る体験」が、利用校のニーズに応じた、本校の特色あるアクティビティになるよう推進していきます。

特色ある取組と地域との連携



平成25年度の本校での自然学校が、5月上旬からスタートしました。11月下旬までに、53グループ（利用延べ人数約24,706人）が、本校で様々な活動を開催しています。左図は、平成24年度本校利用校

平成19年度に「自然学校評価検証委員会」が自然学校の一層の充実を図るために、「6つの方策」を示しました。左図は、平成24年度本校利用校における「6つの方策」の実現度を示すグラフです。

方策6)の家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実の達成が十分できなかつたという報告から、今年度の1学期利用校で、地域との連携を図った取組を紹介します。

平成13年度末に、本校の地元迫間区より休耕田の有効活用について依頼を受けました。そこで農業体験として、平成14年度から「田植え」「稻刈り」体験を実施しています。田植えから稻刈りまでの水田管理などについては、迫間区の皆さんにお願いをしています。平成25年度は、宝塚市立山手台小学校の子ども86名が田植えを体験しました。子どもたちは、これまで研究テーマとしてきた「原

※これまでの実施校

年度	田植え実施校	稻刈り実施校
平成14年	上郡町立山野里小学校 加西市立西在田・泉小学校連合	明石市立大久保南小学校
平成15年	加西市立北条小学校	加西市立北条小学校
平成16年	朝来市立与布土小学校	朝来市立与布土小学校
平成17年	たつの市立神岡小学校	神戸市立南落合小学校
平成18年	相生市立若狭野小学校	相生市立若狭野小学校
平成19年	芦屋市立宮川小学校	芦屋市立宮川小学校
平成20年	芦屋市立宮川小学校	芦屋市立宮川小学校
平成21年	新型インフルエンザによる休校のため中止	芦屋市立精道小学校
平成22年	実施希望校なし	姫路市立城乾小学校
平成23年	雨天のため中止	川西市立緑台小学校
平成24年	西宮市立津門小学校	天候不良により中止

「体験」でいう触・嗅・味の基本感覚を伴った直接体験といえます。秋には、姫路市立城東小学校の子どもたちが、稻刈りをすることがあります。

- 田植えをする。
講師の方の模範演技に続き、児童は入田する。
- 講師の方と一緒に田植えをする。
ふり返りを行う。
感想を発表する。
講師の方へお礼の言葉を述べる。



になっています。来年度以降、季節限定の取組ではありますが、ぜひプログラムの一つに取り入れて頂ければ幸いです。

講師の方の感想



田植え経験があまりない子どもたちでしたが、足下をふらつかせながら私が教えたことを一生懸命に頑張ってくれました。かわいい子どもたちが植えてくれた稻ですから、刈り取りまでしつかり世話をしまいました。子どもたちと一緒に時間が過ぎて、若返った気がしました。このような機会に参加することが出来て楽しかったです。

児童の感想

田植えを体験しました。私は初めてなので、とても大変に感じました。こんな大変なことを昔の人はずつとやり続けていて、すごいなと感心しました。



自然学校実施 小学校の地域との連携

野外炊事で、学校が所有しているたり、地域の公民館などから借用

私にとつて初めての田植え。少しきん張したけれど田んぼに入つてみると、気持ち良くてドキドキはどこかに吹き飛びました。田んぼに入つたときにもチュッと音がしたり、ぬるぬるで足が抜けなくなつたりして、気持ち悪かつたけど、後からどんどん気持ち良くなつてきました。でもだんだん足が重くなつてきて、こんなところ大変な思いをしていました。

児童の感想

自然学校では、はがまでご飯をたきました。今では、すい飯器でピッとするばかんたんにご飯がたけますが、はがまでたく

めてなので、とても大変に感じました。こんな大変なことを昔の人はずつとやり続けていて、この経験をぜひ自然学校を運営で行う北条東小学校の子どもたちといつしょにしたいということから今回の取組となりました。子どもたちは、昨年教えて頂いたことを活かし、自分たちの手でおいしく炊けたという満足感でいっぱいの野外炊事となりました。

直接講師として自然学校に招き入れるような参画方法だけではなく、このように地域の特性を活かし、間接的に地域からの活動支援を受ける活動も自然学校のプログラムに取り入れることで、子どもたちは、地域に愛着を持つことが出来るのではないかでしょう。



はとてもむずかしいです。火加げん一つで食感がかわります。弱すぎたら固くて「コリッ」というし、強すぎたらこげます。できたご飯を食べてみると甘くておいしかったです。

ワツシヨイスクールの人や近所の人が、今まで大切に使つてこられた道具を貸してくださったのはがまで炊くことができました。みんなで協力して炊きました。はがまで炊いたごはんはすごくおいしかったです。

(文責 主任指導主事 御栗 康嗣)



兵庫県立南但馬自然学校

技師
増田
克也



のに双眼鏡を合わせてみると、それは葉の色にうまく溶け込んだアオバトでした。アオバトは大変用心深く、こちらがアオバトの存在に気付く前にいつも逃げられてしまします。ところが今日はクワの実にご執心のようで、こちらを気にしている様子はありません。これは観察をするチャンスです。身を潜めてアオバトが出てくるのを待つことにしました。

どれくらい時間が経過したでしょう。日頃の睡眠不足がたたり、不覚にも船を漕いでしまいました。「ガザツ、バタバタ」大きな羽音にハツとして目を開けると、葉の茂みからアオバトがひょっこり出てきてクワの実をついばんでいるではありませんか。実を食べる様子を見ていると、面白いことに気付きました。アオバトはクワの実をついばむ際に、目を閉じているのです。(写真①) それは一瞬の出来事ですが

暗い曇天の下、風もないのにザワザワと不自然に揺れるヤマグワの木がありました。何者かが、たくさん実ったクワの実を食べているのでしようが、茂った葉が邪魔をして姿を確認できません。

く、実をついぱむ際に、接近目を保護するために閉じてい
アオバトは、実をくちばしに挟むと、首を横に振り一氣にもぎ取つて、素早く口の中へ放り込み（写真②）アツと言ふ間に食べてしまひます。

何度見ても、その度、閉じて
いるようです。では、なぜ目を閉じるの
でしょうか？まさかアオバトまでもが睡眠不足とい
う訳はないでしようし、クワの実の余りの美味しさに
うつとり・・・と解釈したいところですが、これも現
実離れしています。おそらく接する事になる枝葉から
しているのでしょうか。



写真①



写真②



四百〇



四

研修会のお知らせ

自然学校講座（指導者入門）

目的	自然学校の趣旨や指導者の役割を理解するとともに、野外体験活動等の実習通过对して指導者としての資質能力を高める。	受講形態	全日程参加を原則とするが、1日又は講座単位の受講も可能とする。
期日	平成25年8月27日(火)～8月29日(木) 2泊3日		
対象者	大学生、一般県民、公立学校教員（高等学校初任者研修及び10年経験者研修として受講可）、その他自然学校に関心のある者		
募集定員	30名		
経費	6,600円（全日程参加の場合）		
申込方法	「自然学校講座申込書」にて、実施日の2週間前までに直接本校に申し込み。 (FAX、Eメール可)	研修内容	27日 (火) 講話・実習「自然のお話・自然観察」 講義・演習「自然学校・野外活動におけるリスクマネジメント」 演習（指導補助員の心得・先輩に学ぶ） 28日 (水) 実習【アクティビティ（立木＜竹・ひのき＞伐採）体験】 実習【クラフト（竹・木工）指導の基礎基本】 実習【キャンプファイヤー指導の基礎基本】 29日 (木) 実習【野外炊事指導の基礎基本】 振り返り